



平成二十六年年度

土浦日本大学中等教育学校 一般入試「第一回」問題用紙

国 語

(試験時間四十五分)

解答上の注意

- 1 「はじめ」の合図があるまで、本冊子を開かないこと。
- 2 解答は、所定の解答欄にはっきりと読みやすい字で書くこと。
- 3 漢字は楷書を用いてはつきりと記入すること。
- 4 机の上には、「受験票」「筆記用具」以外のものを置かないこと。
- 5 携帯電話等の電子機器の電源はすべて切っておくこと。

受験番号

氏 名

一

次のポスターは野球部の対抗戦を告知したものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

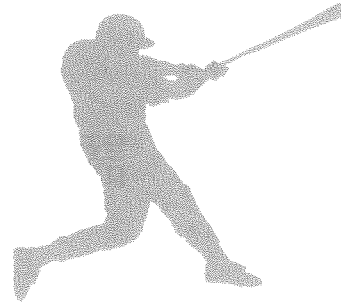
野球部対抗戦のお知らせ

土浦中央中 VS 小松ヶ丘中

毎年恒例の対抗戦開催決定！

土浦中央中が昨年の雪辱を !!

日時：10月26日（土）
9:00開始



(野球部キャプテンから一言)

今年は小松ヶ丘中に勝つために部員一丸
となって戦います。在校生の皆さん、応援
よろしくお願いいたします。

問1 ポスターの表現上の特色として、最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア すべての文を書き言葉で統一しており、読み手にとって身近でわかりやすい内容となっている。
- イ 過去の試合内容を具体的に示すことで、今回の試合のポイントを明確にしている。
- ウ 必要な情報のみを文字で表しており、一目で書かれている内容が分かるように配慮されている。
- エ 文字の大きさや字体に工夫をこらし、イラストを用いるなどして、視覚的にわかりやすくしている。

問2 空らん にあてはまる言葉を、ひらがな三文字で答えなさい。

問3 このポスターの中には、必要な情報が一つ書かれていません。それは何か、答えなさい。

二

次の文章は、土浦日本大学中等教育学校1年F組の「学級通信」の一部です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

1年F組 学級通信 土浦日本大学中等教育学校

先月に行われました体育祭には、たくさんの保護者のかたにおいでいただき、ありがとうございました。元気あふれる生徒たちのAKB48のダンスは見ましたか。(中略)

「^{③A}ぼくたち白組の目標は、^B一致団結して、^C応援合戦で優勝したいです。」という白組団長N君の呼びかけで練習が始まりました。ダンスの振り付けは思った以上にダイナミックで、みんなあせだくになって取り組みました。

(中略)…カメラのレンズが、のようにおどる、生徒たちのはつらつとした笑顔を追いました。(以下略)

問1 傍線部①「AKB」は「あきば」のローマ字表記がもとになっていますが、「つくば」と「かしわ」をそれぞれ、次の例に従ってすべてローマ字の表記にしなさい。また「AKB」のように三字で表した場合、どのように表記するのが適切か考えて答えなさい。

例 ちば ↓ CHIBA

問2 傍線部②「見ましたか」の敬語表現として、最も適切なものを次から選び記号で答えなさい。

ア ご拝見なさいましたか。
 イ ご覧なされましたか。
 ウ 見られなさいましたか。
 エ ご覧になりましたか。
 オ 拝見になりましたか。

問3 傍線部③「ぼくたち白組」したいです。」には表現が適切でない部分があります。その部分をA～Cの記号で答え、正しく直しなさい。

問4 本文中の空らん にあてはまる語句として、最も適切なものを次から選び記号で答えなさい。

ア いろづくもみじ
 イ ゆれる木もれ日
 ウ はじけるポップコーン
 エ たたずむフラミンゴ

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(抜き出しの場合には句読点も一字に数えます。)

これまで、人間と他の動物の比較に関する研究が多数行われ、人間と動物の決定的な差^さ違^いは何か、人間だけにある能力は何か、ということが真剣に議論されてきました。

たとえば、知能の比較は最もサカ^アンに行われています。その結果からわかってきたのは、特に賢いとされている動物である、類人猿、イルカ、カラスなどの知能は、人間の知能との間に断絶はなく、連続的なようです。ただし、彼らが到達できるのは、せいぜい幼児レベルです。道具を使う能力に関しては、長い間、人間だけの能力とされてきたようですが、サルやカラスや魚などの動物で、簡単な道具の使用が報告されて、そのシ^イュ^イョウは崩れています。

感情に関しては、多くの動物で、人間と全く同じかどうかはわからないにしても、人間に匹^ひ敵^{てき}するような怒りや喜びや悲しみの気持ちを持つことがだんだんわかってきています。

意識の比較でも同様です。人間との間に、決定的な差は見つかっていません。チンパンジーは、ツミ^クや恥^はの意識を持っているようですし、象には死に対する意識があるようです。

これまでの比較からは、人間と動物の間の能力の違いに決定的なものはないようです。差^さはあつても、質^し的^{てき}ではなくて量的なもの^①のようです。理系のお父さんとしては、人間と動物の決定的な差を見つけるためには、人間に関わることで、人間だけに見られるゲ^エン^ショウ^ウから出発するのがよいのでは、と思っています。

② そういう意味で、「バーチャルな出会い」は、人間だけが作り出したり、経験したりできるようですので、人間と動物の決定的な違いを探る、いい出発点になると考えます。

では、バーチャルな出会いを可能にしている人間の能力は、何なのでしょう。

多くの宗教において、教祖ははるか昔にこの世を去っていて、信者と教祖は実際に出会ったことはありませんし、これから出会うこともありません。また、ふつうは血のつながりのない赤の他人です。

ところが信者は教祖の教えを学び、儀式を^しっ^せん^せん^せ実践^{せん}することで、彼の考えや行動の仕方を知り、苦難をバーチャルに追体験するうちに、強力な親しみとそれに基づく仲間の気持ちをいだくようになります。その気持ちは、同じ教祖をしたう信者にも向けられます。

バーチャルな出会いの力により、信者にとって、教祖は古くから直接顔を見知っている教師や親のような存在になり、他の信者は、古くから直接顔を見知っている友達や兄弟のような存在になるのだと思います。

宗教の教えや儀式は時間や空間をこえて、口伝えや書物で伝えられてきたものです。どちらにも、ことは必要であることがわかります。国家や民族の文化はどうか。ニホンザルやチンパンジーにも「文化」があるという報告があるので、これを調べてみましょう。チンパンジーでは、棒を使ってシロアリを釣る行動が、ある地域のグループだけに見られ、この行動がまねされて伝わっていく様子が、報告されています。

ニホンザルでも、食べる前に芋を洗う行動が、あるサルによって創始され、グループの中でまねされて伝わっていくことが報告されています。

このようなチンパンジーとニホンザルの「文化」は、人間に似ているというので、ずいぶんと話題になり、もてはやされました。でも、彼らの「文化」は、一見、人間の文化に似ていますが、決定的な違いがあると、理系のお父さんは考えます。

チンパンジーとニホンザルの例では、シロアリ釣りや芋洗いという行動は、家族を中心とする、顔見知りのサルの間でまねされて伝えられています。彼らは、バーチャルな出会いを作り出したり、経験することができないので、顔見知りでないサルに、飛びこえて直接伝わることはありません。

これに対して、人間の文化は、出会ったこともないし、これから出会うこともない、時間や空間をへだてた、赤の他人に、バーチャルな出会いを通して、まねされて伝わります。

ここでこんな反論をする方がいるかもしれません。

「サルの文化だって、時間が経てば、結果的に、時間や空間をへだてたサルに伝わって行くのではないか。たとえば I 結果的には人間の文化と同じではないの？」

もっともな意見ですが、大きく見落としている点があります。

サルの文化が伝わっていくのは、顔見知りの間で伝わっていくことの積み重ねであって、人間の文化が伝わる際に見られる飛躍ひやくがありません。

どんなに古い文化であっても、サルの立場からすると、自分の親や友達をまねしたと思うだけで、たとえば二十世代前の偉大な天才ザルが創始者であったことなど知るよしもないのです。

これでは、二十世代前の創始者ザルと、現代のサルの間には、何の気持ちのつながりも生まれません。人間の文化の意味で、本当に時間

と空間をこえて伝わったとは言えないと思います。

このような大きな差が生まれるのは、サルたちは時間や空間をへだてた第三者に関する情報を伝えることができないからです。そのために、彼らにとっては、自分が実際に出会った経験したことのみがこの世に存在し、そうでないことは、二十世代前の創始者ザルの例のように、この世に存在しないのと同じということになります。

サルたちに、宗教や文化を本当に理解する能力はないのです。人間の場合、時間や空間をへだてた第三者に関する情報も、口伝えや書物で伝えられますので、やはり、 II が重要なようです。

(鄭雄一『東大理系教授が考える道德のメカニズム』より)

※作問の都合上、文章の一部を改変しています。

問1 傍線部ア～エのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 傍線部①「差はあっても、質的ではなくて量的なものようです」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 動物と人間の差は、どれだけ能力を身に付けるかではなく、どれだけ能力を発揮できるかに違いがあるということ。
- イ 人間と動物の差は、持っている能力がどのようであるかではなく、どれほどの能力を持っているかに違いがあるということ。
- ウ 賢い人間と普通の動物の差は、能力を持っているか低いかではなく、能力が高いか低いかの違いがあるということ。
- エ 賢い動物と普通の動物の差は、能力が高いか低いかではなく、持っている能力の数に違いがあるということ。

問3

傍線部②「そういう意味で、『バーチャルな出会い』は、人間だけが作り出したたり、経験したりできるようです」とありますが、「バーチャルな出会い」とはどういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 今までに会ったことがなく、またこれからは会おうことがない人を、まるで直接見知っている相手のように感じる出会い。
- イ 今までに会ったことがあるが、これからは出会わないであろう人に、まるでこれからは関係が続くかのように感じる出会い。
- ウ 今まで見たことがあり、またこれからは会おうであろう人を、まるで自分の家族や親せきのように感じる出会い。
- エ 今まで見たことがない人であるが、これから会おうかもしれない人と、まるで実際に会っているかのように感じる出会い。

問4

本文中の空らん I にあてはまる内容として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ある地域で始まった、ある行動を、他の地域のサルに教え伝えていくうちに、赤の他人だったサルが、顔見知りと言えるほどにまで関係が深まるので、
- イ 何世代も前に始まった、ある行動は、そのグループの行動を活発にし、他のグループを吸収して大きな集団になったり、長期間にわたって栄えたりするので、
- ウ 数十年前に始まった、ある行動が、何世代もまねされて伝わっていくうちに、それを創始したサルからは、ほぼ赤の他人の別のサルまで伝わっていくので、
- エ ある行動を創始したサルの行動範囲が広ければ、さまざまな地域にその行動を伝えたり、寿命が長ければ、数世代にわたって教えられるので、

問5

傍線部③「二十世代前の創始者サルと、現代のサルの間には、何の気持ちのつながりも生まれません」とありますが、「気持ち」とは、具体的にどのようなものを指しますか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 集団に所属していることから生まれる自意識
- イ 対象に親しみを持つことから生まれる仲間意識
- ウ 相手をおそれることから生まれる敵対心
- エ 仲間を大切に思うことから生まれる好奇心

問6

本文中の空らん II にあてはまる言葉を、本文中から抜き出して答えなさい。

問7 次の文章はある少年の冬休みの思い出を書いたものの一部です。波線部の少年の考えは、本文の内容をふまえて考えると、正しいと言えますか。正しいと思う場合は「○」、正しくないと思う場合は「×」で答えなさい。また、その理由を「時間」と「空間」という言葉を用いて、九十字以内で答えなさい。

ぼくはこの冬休みに、おじいちゃんのところに行き、初めて温泉に連れて行ってもらいました。その温泉は、近くの野生のサルが入ることでも有名どころでした。何百年も昔から、人々の間で、体に良いと語りつがれてきたそうです。野生のサルが入るようになったのは百年以上前だとも聞きました。

ぼくが行ったときも、ちょうど野生のサルの群れが入ってきました。人間と同じように、気持ち良さそうな顔をしているのを見て、思わず笑ってしまいました。

ぼくは、心も体も温まり、温泉に入る風習を伝えてくれたご先祖様に、感謝したくなりました。きつと、サルたちも、ぼくと同じように感じているに違いないと思いました。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(抜き出しの場合には句読点も一字に数えます。)

風が強くなっている、とマリアは思った。

同時にいつもの西から東へ吹く風ではないことにも気付いていた。時間の経過と共に風の向きが変わっている。風は午後になって一層強くなったので、西の草原で狩りをしていたマリアは風をさけて草原から雑木林に入った。しばらくすると雨も降ってきた。そんな雨の中、マリアは西の雑木林の中でカマドウマを狩った。やたらと後ろあしが長いバッタの一種だ。さしたる抵抗も受けることなく楽に狩れた。あしをかみちぎってから、肉団子にする。

それをくわえて巣に戻ろうとした時、雨が凄まじい降りになってきた。ヴェスパ・マンダリニアにとって少々の雨風は平気だが、この時の雨はさすがのマリアをしても飛ぶのを断念させるほどの激しさだった。

マリアは大きなハンノキの洞を見つけて飛び込み、風と雨が止むのを待った。

洞の中には先客がいた。ミドリシジミだ。ミドリシジミはマリアを見てもあわてなかった。オオスズメバチが自分のようなちっぽけなチョウをおそわないことを知っているのだ。

「風が強いですね」ミドリシジミが言った。

「そうですね」

「あなたが持っているものは何ですか」

「カマドウマの肉よ」

「殺したのですか」

「殺さないと肉は取れないわ」

①ミドリシジミはため息をついた。

「ぼくは虫を殺したことはない。ぼくは花の蜜を吸って生きています」

「肉は私が食べるんじゃないわ。妹の幼虫たちに食べさせるものよ」

「妹？ 子供じゃなくて」

マリアはうなずいた。

「子供はいないのですか」

「私はオオスズメバチのワーカーよ。子供は産まないわ。その代わりに妹たちを育てる」

ミドリシジミは不思議そうな顔をした。

「ぼくらの生き方とはだいぶ違いますね。②ぼくはただ恋のためにだけ生きています。ほら、これが見えますか？」

ミドリシジミはそう言ってはねを広げて見せた。

「きれいなはねね」

「ぼくたちミドリシジミの仲間はゼフィルスと呼ばれています。ゼフィルスの一族は皆、美しいはねを持っています」

ミドリシジミは青く光るはねをゆつくりとはばたかせた。「ぼくはジョウザンミドリシジミのオスです。この美しいはねをメスに見せて、彼女たちを惹きつけるんです。ぼくたちはそのためだけに生まれてきたんです」

マリアはおかしくなった。

「そんなことのために一生懸命なの？」

「そんなこと？」

ミドリシジミははねを閉じた。

「ぼくたちが恋をするのは子孫を残すためです。その戦いがどんなに熾烈なものか、あなたは知らないでしょう。ぼくたちゼフィルスの一族のオスは美しいはねでメスを虜にするけど、コオロギやマツムシたちのオスははねをこすって歌うことで、セミのオスはお腹を鳴らして歌うことでメスを呼ぶんです」

マリアは聞きながら、さぞやたいくつな生活に違いないと思った。四六時中、考えているのはメスのことばかりで、美しいはねを広げて飛んで見せたり、はねをこすったり腹をふるわせて生きるだけの暮らしなど、まったくばかばかしいものに思えた。おそらく彼らの種族のメスも頭の中にはオスのことしかないのだろう。

「それで、あなたはメスとはめぐり合えたの？」

③「それがまだなんです。ぼくは昨日羽化したばかりなんです。せっかく飛び立とうと思っていたら、この雨でがっかりです」

しかしミドリシジミはそれほど落胆した様子は見せなかった。

「この風と雨が止んだら、一日中飛び回りますよ。そして、素晴らしいメスにめぐり合います」

「うまくいくといいわね」

「大丈夫です。ぼくは運がいいんですよ。成虫になれたことがそれを証明しています。同じ卵からかえった兄弟のほとんどは成虫にはなれませんでした。成虫になれるのは百匹に一匹、いやそれよりも少ないかもしれません。ぼくがいかに運の強い虫かわかるでしょう」

「そうね」

ミドリシジミは洞の上でうれしそうに舞うように飛んだ。その時、彼のはねが洞の上にあったクモの巣にひっかかった。ミドリシジミは悲鳴を上げて暴れたが、はねはクモの糸から離れなかった。

すぐにクモがミドリシジミに近付き、その体に糸を吹きかけた。クモは小さなゴミグモだった。

「ああ、何ということだ」

体の自由を失ったミドリシジミは悲しげな声を出した。「こんなことで命を失うとは——」

ゴミグモはミドリシジミの言葉を無視して、その体に尖った口吻をさしこんだ。

「——無念です」

それがミドリシジミの最期の言葉だった。ゴミグモは何も言わずにミドリシジミの体液を吸った。

風と雨は一層強くなっていった。マリアは洞の端まで行って見てみたが、激しい雨のため雑木林の中もよく見通せないほどだった。この雨の中を飛ぶと道を見失うおそれがある。冷たい雨にうたれて、いたずらに巣を求めて彷徨して体力を消耗すると死に至る。マリアは風と雨がおさまるまで洞の中でじっとしてようと考えた。

しかし風と雨は一向に弱くならなかった。やがて陽が落ちて夜になった。

マリアは帰還をあきらめた。仮に雨が止んでも暗闇で飛ぶことはできない。今夜はこの洞で眠ることに決めた。

「さすがのオオスズメバチも台風にはお手上げみたいだな」

ふいにゴミグモが声をかけてきた。

「タイフウ？」

「夏の終わり頃から、よくやってくる。激しい風と雨が一晩くらい続く。それを知らないということは、あんたは若いね」

「私は羽化して六日目なの。こんな風は初めて」

ゴミグモはなるほどという顔でうなずいた。しかしそれ以上は話しかけてこなかった。時間をかけてゆつくりとミドリシジミの体液を吸っている。マリアは一瞬ゴミグモを狩ろうかとも思ったが、あまりに小さいのでその気が失せた。

ゴミグモの言うように風と雨は夜が深まった後も一向に弱まらなかった。マリアは洞の中で一夜を過ごした。

(百田尚樹『風の中のマリア』より)

※作問の都合上、文章の一部を改変しています。

* ヴェスパ・マンダリニア……オオスズメバチの学名。

問1 傍線部ア～エの漢字の読み方を、ひらがなで答えなさい。

問2 傍線部①「ミドリシジミはため息をついた」とありますが、このときの「ミドリシジミ」の心情を説明したものと最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分も虫であるからには、最強のスズメバチに狩られて食べられるのはしかたないとあきらめている。

イ すでにえものを手に行っているスズメバチが、自分を殺すことはないとわかりほっと胸をなでおろしている。

ウ 生きているものを殺すという行いを、平然とするスズメバチの考えを理解することができずにいる。

エ 自分とあまりに違う生き方をするスズメバチに対し、考え方を改めるように説得しようと決心している。

問3 傍線部②「ぼくはただ恋のためにだけ生きている」とありますが、この場合の「恋」とは、何の目的でどうすることをいっていますか。二十五字以内で説明しなさい。

問4 傍線部③「しかしミドリシジミはそれほど落胆した様子は見せなかった」とありますが、それはなぜですか。三十五字以内で説明しなさい。

問5 傍線部④「マリアは洞の中で一夜を過ごした」とありますが、その理由として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 天気と時間が、飛ぶのに安全ではないと考えたから。
- イ 台風がおそろしいものだということを知っていたから。
- ウ 話し相手だったミドリシジミが死んで悲しかったから。
- エ 幼虫に食べさせる肉がまだ足りないと思ったから。

問6 本文からは次の一文が抜けています。この一文が入る箇所を探し、その直前の五字を抜き出して答えなさい。

小さいながらも青い光沢こうたくを持った美しいはねだった。

問7 「マリア」と「ゴミグモ」の生き方の、共通する点と違う点を五十字以内で説明しなさい。

国 語

受験番号
氏 名

一	
問1	
問2	
問3	

二	
問1	
問2	

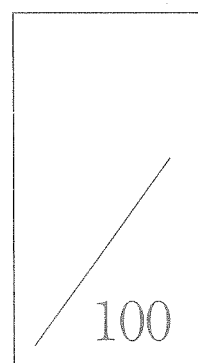
問1	
問2	
問3	
問4	

三	
問1	
問2	
問3	
問4	
問5	

問1	
問2	
問3	
問4	
問5	
問6	
問7	

四	
問1	
問2	
問3	
問4	
問5	
問6	
問7	

ア	
イ	
ウ	
む	
エ	



--

--

--

--

解答

- 一 問一 エ
問二 はたす
問三 試合をする場所。

- 二 問一 つくば：TSUKUBA, TKB / かしわ：KASHIWA, KSW
問二 エ
問三 記号：C / 正しい表現：応援合戦で優勝することです。
問四 ウ

- 三 問一 ア 盛（ん） イ 主張 ウ 罪 エ 現象
問二 イ
問三 ア
問四 ウ
問五 イ
問六 ことば
問七 X / 人間は口伝えや書物で時間や空間をへだてた情報を伝えられるので、風習を伝えてくれたことへの感謝ができるが、顔見知りの間で伝わることの積み重ねであるサルの文化で、それはできないから。

- 四 問一 ア ぞうきばやし イ にくだんこ ウ や（む） エ せんきやく
問二 ウ
問三 子孫を残す目的で素晴らしいメスにめぐり合うこと。
問四 成虫になれたことは運の強さの証明なので、メスにめぐり合えるはずだから。
問五 ア
問六 て見せた。
問七 虫を殺して生きて行くことが共通する点で、自分のためか、他に与えるためかということが違う点である。

解説

- 一 問一 ポスターを見ると、文字の大きさが異なり、下線や太字を利用したり、イラストが使われたりしていることがわかるので、選択肢エが選べます。

- 三 問三 ポスターには、試合の日は書かれているが、試合をする場所が書かれていないことがわかります。
二 問二 傍線部①の前に「人間と動物の間の能力の違いに決定的なものはないそうです。」とあることから、「持っている能力がどのようであるかではなく、どれほどの能力を持っているかに違いがある」という記述を含む選択肢イが選べます。
三 問三 少し後にある「バーチャルな出会いの力により、」で始まる一文の内容に着目すると、教祖や他の信者が、直接顔を見知っている友達や兄弟のような存在になることが説明されているので、選択肢アが選べます。

- 四 問二 ため息をついた後に、「ぼくは虫を殺したことはない。」と主張していることから、生きているものを殺すことに対して否定的な考えを持っていることがわかるので、選択肢ウが選べます。
問五 傍線部④の前に着目します。風と雨は一向に弱くならず、やがて陽が落ちて夜になり、マリアが帰還をあき

らめた様子から、最も適切なものは選択肢アであることがわかります。